

パートナーシップで進める“小さな希望”創出育成事業(青森県大鰐町)

大鰐町において、農商工関係のNPO等の団体が連携して、大鰐温泉もやしの増産と首都圏を中心とした販路拡大、地域交流センター「鰐come」の黒字化の推進などを通じ、持続可能なビジネスとして取り組めるシステムの構築と、パートナーシップ型地域経営を推進する。



「鰐come」での販売



大鰐温泉もやし



首都圏での販売

平成21年度の主な取組

- ① 大鰐温泉もやしの安定供給体制の確立と首都圏における販路の更なる拡大によるブランド化推進。
- ② 地域交流センター「鰐come」の集客増による活性化のため、農商工連携により産品販売イベントやおもてなしツアーを実施。
- ③ 大鰐応援ファンクラブの会員拡大と首都圏での大鰐産品の販売や大鰐への訪問に結びつくシステムの定着化。

平成22年度以降の展開

大鰐温泉もやし生産組合の法人化と増産体制の定着、地域内連携・協働による新たな「鰐come」ブランドの開発・販売、首都圏での大鰐産品の本格販売などにより、「自ら稼げる地域」、「パートナーシップ型地域経営の推進」を実現する。

盛岡土産土法(どさんどほう)プロジェクト

～地域に愛される菜園エリアの創造～(岩手県盛岡市(中心市街地エリア))

盛岡市内中心部(菜園エリア)において、子育て世代にターゲットを絞り、点から面へと視点を変えた、まちなかへの集客と遊休不動産活用のため、行政・不動産オーナーを交えたエリアマネジメント協議会を立ち上げ、菜園地区エリアマネジメント方策のとりまとめや、まちなか保育、子育て百貨店の開設等を行う。



遊休不動産の活用
(子連れカフェ Kids café Moog)



遊休不動産オーナー
による現在版
「家守塾(やもりじゅく)」

平成21年度の主な取組

- ① 不動産オーナー・事業者・行政が協議会を設立し、遊休不動産活用策など、菜園地区エリアマネジメント方策をまとめる。
- ② 専門学校と連携したまちなか保育園の開設、地域農産品・子供用品等を集結させた「子育て百貨店」の実証店舗等、子育て世代向けコンテンツを面的に展開。

平成22年度以降の展開

菜園エリアをモデル地区としたエリアマネジメント方策に則った貸付けや歩道等のハード整備等、まちの価値を高める取組を官民連携の下で推進していく体制を確立させ、まちなかの遊休不動産の減少と雇用増に結びつけていく。

「わ かるまい」 雑穀の桃源郷づくりプロジェクト(岩手県軽米町)

ヤマセの影響で稲作に頼れず雑穀を栽培してきた軽米町において、町民、農商工等の関係団体と行政が地域を挙げて知恵と労力を出し合い、首都圏を中心とする販路拡大とそれに伴う生産拡大、都市部との交流の拡大等を推進する。



食フェスタ



そば・アマランスの圃場



交流ツアー芝桜植栽体験

平成21年度の主な取組

- ① 首都圏をターゲットにした雑穀の販路拡大、生産拡大を図るための担い手育成。
- ② 農家民泊、交流モニターツアー、雑穀宣伝大使の委嘱拡大等による都市部との交流人口の拡大。

平成22年度以降の展開

雑穀の桃源郷を目指し、特産品の関連商品化・販路の拡大、担い手の育成、都市部との交流人口の拡大を図り、持続可能な雑穀によるまちづくりを地域を挙げて推進する。

「浄法寺漆」による地域再生プロジェクト ～国産漆最大の産地が挑む元気再生～(岩手県二戸市)

上質ではあるが、知名度が低かった「浄法寺漆」と、「浄法寺塗(漆器)」のブランド力を強化し、漆産業を振興するため、産学官民の連携により、漆の原木調査・植林、漆掻きの担い手育成、住民ネットワークづくりと販路拡大を図る。

生産



浄法寺地域の漆の原木調査



植樹祭

担い手育成



漆掻き



就労プログラムの検討

販路拡大



講演会・ワークショップの開催



漆消費地(京都)で開催した展示会

平成21年度の主な取組

- ① 漆増産に向けた、二戸地域に範囲を拡大した漆の原木調査と企業と連携した植林の推進。
- ② 担い手確保のための、若年層が定住できる就労プログラムのモニター検証と漆掻き就業のための融資等の条例化。
- ③ 首都圏等での展示会開催や、県内伝統工芸品への使用促進等、新たな販路を開拓。

平成22年度以降の展開

浄法寺漆を全国的なブランドに押し上げるため、安定した漆の生産と漆器等の販売・契約増加を図るとともに、漆就労支援のための融資等の制度化や住民の受入体制を確立し、就業の場を確保する等、地域を挙げて「漆の里」としての再生を図る。

奇跡の海「三陸」浜の町再生プロジェクト(岩手県大船渡市、陸前高田市、住田町)

生産者が漁の現場をライブ映像で配信し、消費者が「見て」「買って」「楽しめる」産直のシステムを構築することにより、一次生産の現場が直接消費者とつながって売上げの増加を図るビジネスモデルを確立する。



定置網の生ライブ中継



産地を巡るツアーの開催



首都圏・仙台でのライブ映像を交えた直販イベントの開催

平成21年度の主な取組

- ① 漁の風景(船舶ライブカメラ)を消費者が直接見て注文することや、HP上で調理方法の紹介、「タイムセール」等ができるシステムを確立。
- ② 魚介のほか、地場の農産加工品も一括購入できる体制の構築と、地場食材を使用している飲食店等への販路拡大を促進。

平成22年度以降の展開

生産者と消費者を直結するシステムを確立するとともに、法人化による本格的な販売を進め、安全・安心な食材を産地が直接消費者と向き合って売る新たなビジネスモデルを確立する。

産業遺産・環境産業観光プロジェクト(秋田県鹿角市、小坂町、大館市)

地域の環境関連事業者、観光関係者、行政等の連携の下、鉱山技術を活かした環境リサイクル産業等の産業観光資源、鉱山関連の近代化産業遺産等の歴史的観光資源、既存観光資源を相互に関連づけた、環境調和社会について学ぶ新たな観光モデルを提示し、環境教育を採り入れたプログラムによる交流人口の拡大を図る。



モニターツアー
(テレビリサイクル場)



モニターツアー
(小坂鉱山事務所)



案内人養成講座

平成21年度の主な取組

- ① 体験型環境学習メニューの研究開発、案内人のスキルアップ講座開催とネットワーク形成による体制の強化。
- ② 新しい観光素材としての環境産業観光のPRによる誘客力拡大、受入態勢構築のための地域意識の醸成。
- ③ 環境産業観光と既存の観光素材を組合せた新たな観光メニュー、モデルコースの構築。

平成22年度以降の展開

環境教育旅行の誘致、体験・学びを志向する人々等への情報発信・PR活動の推進、案内人のスキルアップ、「案内人の会」の自立化・システム化などにより、近代化産業遺産、環境リサイクル産業と既存の観光資源を組み合わせた産業観光コースを確立し、環境教育の先進地としての地位確立と交流人口の拡大を図る。

東北芸術工科大学との連携による地域と観光産業活性化プロジェクト (山形県大蔵村肘折地区)

1200年以上の歴史を有する湯治場・肘折温泉において、東北芸術工科大学との連携により、芸術文化(アート)を活用した“新たな魅力創出”と、体験メニューの開発・充実、肘折地域ブランドの商品開発等により、現代版湯治スタイルを確立する。



逗留芸術家の作品展



肘折こけし工人体験講座



東北芸術工科大学の
学生が描いた灯籠



「四ヶ村棚田と長沼・
ブナ林めぐり」プチツアー

平成21年度の主な取組

- ① 主に中高年層をターゲットにした灯籠展等のアート導入、映画上映支援、写真展等による魅力UP。
- ② 「棚田・ブナ林めぐり」プチツアー等の体験型メニューを盛り込んだ中長期滞在型の旅行商品の開発・充実等による新たな湯治スタイルの確立と商品化。
- ③ 肘折地域ブランドの商品開発・販売。

平成22年度以降の展開

地域を挙げて、アートあふれる温泉地づくりの継続、「体験メニュー」の充実・商品化、肘折ブランドの商品開発・販売の事業化を図り、新たな湯治場としての集客増を図る。

つるおか森のキャンパス元気プロジェクト

(山形県鶴岡市朝日地域、温海地域、由良・鼠ヶ関地域及び中心市街地等)

これまで出荷を諦めていた山間地の高齢者農家等の出荷を助ける「森の産直カー」の範囲を漁村地域に広げ、中心市街地の空店舗において販売することにより、地域交流の拡大と地域経済の新たな循環システムを構築する。



「森の産直カー」集荷・販売ルート

山間部の集荷風景

平成21年度の主な取組

- ① 「森の産直カー」の自立運行に向けた販売実験による検証。漁村発「森の産直カー」の運行による漁村-中山間地域-中心市街地の地域内交流拡大。
- ② 「森の産直カー」と連動した中心市街地における産直実験店舗「山王食鮮市」の開設による商店街活性化。

平成22年度以降の展開

「森の産直カー」の自立運行の体制と販売手法を確立することにより、中山間地域・漁村・中心市街地間の持続可能な新たな地域経済循環システムの定着と地域住民の交流拡大、生き甲斐の創出を図る。

アスリートヴィレッジと市民活動の融合による滞在型快適温泉地環境プロジェクト (山形県上山市)

標高1000mのアスリートビレッジ(高地)と、近接する上山温泉(平地)を効果的に連携させた、気候性地形療法と温泉療法の併用の相乗効果の医科学的検証と地域一丸となった受入体制の整備による「上山型温泉クアオルト(保養・療養地)」の形成を目指す。



平地と1000mの気候性地形療法効果検証

温泉入浴アドバイザー
研修会

平成21年度の主な取組

- ① モニターツアーの実践と地元医師との連携による医科学的効果の検証。
- ② 気候性地形療法のガイド育成とガイドの組織化による滞在型プログラムの中心となる人材育成。
- ③ 着地型プログラムの確立と地元食材を活用した健康食事メニューの開発。

平成22年度以降の展開

市民や旅館関係者等地域ぐるみで、健康を中心とする着地型旅行商品の販売、ガイド、健康弁当の提供等のコミュニティビジネスの実践、医科学的データに裏付けられた温泉保養地ツアーの誘客等を実施することにより、新しい温泉保養地モデルを確立する。

日本一の蔵再生によるまちおこし(福島県喜多方市)

合併後の新喜多方市に共通する地域資源である「蔵」を最大限に活かし、市民が一体となって景観モデル地区指定、蔵のまちづくりセンター創設、観光の魅力創出發信等、「蔵」の利活用による様々なまちづくりの取組みを進め、観光客、宿泊客増、産業の活性化、雇用拡大を図る。



登録有形文化財



蔵文化シンポジウム



写真展の開催



農産物直売所

平成21年度の主な取組

- ① 蔵のまちなみを活かしたまちづくりへ向け、景観住民協定締結、景観モデル地区の指定の実施。
- ② 蔵の保全・利活用の促進、人材の育成、持続的な活動の中心となる「蔵のまちづくりセンター」を創設。
- ③ 蔵を活用した宿泊拠点の魅力創出、観光客増を図るための情報発信ツールの開発。

平成22年度以降の展開

市民が一体となった「蔵」の利活用によるまちづくりを推進し、観光客数の増加、「蔵」に関わる産業の活性化と雇用の拡大を図り、「豊かで元気な農山村と活力ある生活・観光都市」を実現する。

岳温泉日本一の健康保養温泉地創造事業(福島県二本松市岳温泉)

旅館、飲食業団体、医療機関等の連携により、安達太良山と岳温泉を生かし、ウォーキングを組み合わせ、地形療法の活用による、科学的データに基づく健康プログラムを確立し、健康保養温泉地として宿泊滞在客の増加と他の産業の活性化を推進する。



ウォーキング体験



温泉(足湯)体験

平成21年度の主な取組

- ① 企業・団体向けと、“子供力”回復のためのファミリー向けの健康滞在旅行商品の開発・利用促進。
- ② 人材育成セミナー、シンポジウムの開催による地元受入体制の構築。
- ③ 近隣医療機関と連携した国内向けメディカルツアーの開発と中国でのキャラバンの実施。

平成22年度以降の展開

人材育成強化による受入体制の整備、健康と地形療法ウォーク等のアドバイス拠点ビジターセンターの確立等により、滞在客の増加を図り、岳温泉を生かしたヘルスツーリズム事業を核とした観光と他産業の活性化を実現する。

『健康万歳！！田舎・暮らしの知恵袋と健康ミネラル野菜・ICTの共鳴』 (福島県西会津町)

土を改良して栽培した「ミネラル野菜」、「西会津ミネラル野菜」のブランド化のさらなる推進と、市場化導入テスト、ICTを活用した販売等により、ミネラル野菜を通じた新規創業及び雇用の拡大を図る。



ミネラル野菜加工品の
実証実験



ミネラル野菜を活用した
スイーツの首都圏試食会

平成21年度の主な取組

- ① ミネラル野菜の成分分析によるブランド化の更なる推進。
- ② ミネラル野菜、関連商品の道の駅、アンテナショップ等における販売実証実験。
- ③ ICTを活用したマーケティングとテスト販売実施。

平成22年度以降の展開

ミネラル野菜を中核とした全国的な健康促進・長寿スタイルのモデル地域として、ミネラル野菜のブランド化とミネラル野菜スイーツ等の関連商品開発、喜多方・北塩原のラーメンとの連携、アンテナショップ等の経営の自立化等により、地域産業振興、観光振興、都市機能の強化を図る。

街道を活かした桑折のまちづくり実践調査 ～歩いて楽しむために～(福島県桑折町)

羽州街道と奥州街道の分岐点、蚕種生産の中心地として栄えた町固有の地域資源を活かし、地域住民連携による、まちなかでの街道を軸としたまちづくりのシンボル実現、観光案内ボランティアの育成等の取組を有機的につなげて集客力を高め、歩いて楽しめる賑わいのあるまちづくりを推進する。



桑折御蔵
(街なかアンテナショップ)



おもてなし講習会

平成21年度の主な取組

- ① 現存日本最古「三元自転車」復元実験、屋号の修景等の街並み景観向上策により、にぎわいを創出し、交流を促進。
- ② 町民向けおもてなし講座の開催、観光案内ボランティアの育成等により、まち巡り観光を促進。

平成22年度以降の展開

「三元自転車」改良復元、まちぐるみ博物館、屋号の修景等の街並み景観の向上、観光案内ボランティアによるまち巡り観光の促進等により、交流人口の拡大を推進し、歩いて楽しめる賑わいのある桑折町を確立する。

地域資源と現有する社会資本(外国人力)を活かしたまちづくり

(新潟県南魚沼市旧大和町地域(魚野川・水無川流域))

国際大学の持つ外国企業とのネットワークを活かし、インキュベーションセンターの創設により起業化ニーズとシーズの情報交流を行い、外国企業の誘致と起業化の促進による新たな雇用の場の確保を図るとともに、外国人、新住民のための生活支援機能の強化を図る。



交流イベント
「天地人～浦佐の陣～」



「ふれあいセンター」
正月飾り教室



コミュニティバス「ふれあい号」



餅つきで外国人と交流

平成21年度の主な取組

- ① 企業誘致窓口として、JR浦佐駅の空きスペースを活用した「インキュベーションセンター」を開設し、起業化のためのマッチングや企業誘致を促進。
- ② 「ふれあいセンター」における地域住民の語学研修や移住定住者向けガイダンスの実施等、生活支援機能を強化。
- ③ コミュニティバスの事業化。

平成22年度以降の展開

インキュベーションセンターの機能強化による外国企業誘致による雇用の創出、コミュニティバスの特定事業会社設立により、新たな経済圏を構築する。

里山再生よりみち大学(新潟県中越地域)

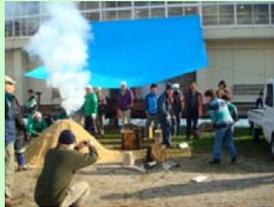
増加する廃校を活用し、里山の環境や生活の知恵を学ぶ体験型講座(里山再生よりみち大学)を通して、県外の大都市や近隣の都市との交流人口を拡大することにより、中越地震で被害にあった地域における定住促進と持続的な再生を目指す。



里山再生よりみち大学におけるモデル講座(H20.11,H21.2)



民泊者・地元住民の交流会



薪割りで里山の暮らしを体験

平成21年度の主な取組

- ① 持続可能な講座開催に向けた、講座拡大のための有識者との連携強化、講座カリキュラムの充実、受講者拡充方策の検討と実証、「サポーターズクラブ」設立。
- ② HP構築等の受講生誘致のための効果的な情報発信。
- ③ モデル講座の継続実施による、受入側地域住民の主体的な参加形態の検討。



平成22年度以降の展開

安定した「里山再生よりみち大学」の運営を通じて、里山の地域住民・都市部の参加者・講師等の協力者などの生き甲斐の醸成と里山の後継者育成を図るとともに、地場製品の販売増加などによる経済効果の創出を図り、持続可能な里山暮らしを構築する。